

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

安藤一夫

小林国二 小林善秋 高橋潔
佐藤正樹 近藤マリ子 近藤善信



安善寺の「おびんずる尊者」様

な ほとけ 撫で仏で親しまれている おびんずる様

翠巖龍弘

八月十三日は檀信徒の皆様が、お寺にお盆の挨拶に来られますが、家族全員でお参りに来られる家庭も多く、夕方ころからは大勢の参拝の方々に、墓地や本堂も一杯になります。

私も、お盆の挨拶で一日中本堂に座っておりますが、本堂の入口の方を見ますと、お参りの方は、まず本尊様に手を合わせられます。小さなお子さんも真似て小さな手を合わせてお参りしている姿は、何とも微笑ましいものです。その後、お位牌堂へ向かわれますが、ほとんどの方が正面左側に安置されております。おびんずる様にお参りされております。皆様、おびんずる様の頭・顔・腕・膝などを撫でて、子供さんにも教えながら、自身の同じ所を撫でておられます。唯一、本堂の中で行列の

できる仏さまとして親しまれております。一体どんな仏さまなのでしょう。か。
實頭盧跋羅墮(實度羅跋羅墮)といい、實頭盧は名で跋羅墮は姓です。仏弟子で十六羅漢(仏法を守護する十六人のすぐれた阿羅漢で、各々眷属を従え、合して五百羅漢などという)の第一で、白頭長眉の羅漢です。もと優填王の臣でありましたが、出家して阿羅漢果を証し神通力を得ましたが、その神通力を世人に用いて迷惑をかけ、お釈迦様に叱責され、仏命によって涅槃に入らず、南方で衆生を教化されました。のちに中国では唐代まで、聖僧として食堂にその像を安置されました。

私共、僧がお賓頭盧様の話をしたことがないのに、檀信徒の皆さん方が、盂蘭盆などで参詣されると、老若男女を問わず、お賓頭盧様を撫でるのは何故でしょうか。それはお賓頭盧尊者への信仰が、各家庭において親子代々に伝承されておるからではないでしょうか。
ドイツやインドなどでは、現在でも公教育の場で、宗教教育が行われているようですが、戦後の日本においては、憲法によって公教育における宗教教育が行えません。だからこそ各家庭において、子供や孫にしっかりと宗教教育を行い、今の現代社会の荒廃を少しでも住みよい社会に変えるべき、せめてお盆・お彼岸・お正月などには、家族で先祖様に手を合わせ、仏さまの教えを継承していただきたいものです。

仏壇のお参りの仕方 ①朝、洗顔を済ませてから、朝食前にご飯とお茶・水をお供えます。

お墓飾りは伝統を継いで簡素に

長岡市新保●町永権一



今年もまた暑い夏とともに盂蘭盆がやってきました。梅雨明けと同時に異常とも思えるほど、連日三十五度前後の真夏日が続き、暑かった夏を思うと五十余年前の長岡の戦災を思い出さずにはいられません。

当時、私はまだ小学生のなかほどで、定かでない記憶の中にも、日本全土が戦火に脅えている時に初めて聞くラジオ放送、それは八月十五日の正午、終戦を告げる玉音放送でありました。数々の大きな出来事のある

った昭和二十年を回想するときに、暑い夏であったことを憶えています。親の雑記帳を見るかぎり四十日もの日照りが続いたとメモっており、今年の夏とほぼ似かよっているのではなからうかと思えます。

戦後半世紀余りを経過した今日、政治をはじめ経済、教育、その他諸々の制度において大きな変革がありました。今昔変わらぬものに正月行事とお盆行事があるうかと思えます。

先祖の霊を迎え、またお送りする盂蘭盆行事のひとつであるお墓飾りについての所感を記述してみたいと思います。

私が先代方丈様から、お盆明けの墓飾りの撤収のお話を受けて以来、今日まで二十有余年が経過いたしました。時代と共にお墓飾りの内容も様変わりし、昭和

五十年以降は、特にお供え物の豪華さにはただ驚くばかりです。

先祖縁者が永遠の眠りについていられるお墓、祖先を敬う心は大切にしなければなりません。お盆は祖先の精霊が家族の住む家へ一時帰休されると、子供のころから聞かされています。

だとするならば、お墓飾りは原点にかえて、野カヤを数本立て真狐を敷き、茄子・キュウリで乗りものを用意しお供えはホオズキなど、その他少々の品で十分かと思えます。より以上の品々は家のお仏壇の飾棚にお供えすることが、より先祖供養になるのではないかと思います。

日本古来のいろんな伝統行事が、ともすれば失われがちな昨今、せめてお墓飾りは伝統を失わず、環境にやさしく簡素に飾り続けたいものです。

大本山總持寺(御征忌焼香師随行)参拝

- 期 日/平成11年10月13日(水)～15日(金)《2泊3日》
- 旅 費/65,000円(本山のみ宿泊及び参拝の方21,000円)
- 募集人員/45名(お申込は9月20日までに安善寺までご連絡ください)
- お申込金/10,000円(旅費充当)

13日(水)	長岡安善寺	9:30	長岡IC	関越高速	大泉IC	東京外環道路	川口JC	首都高速	汐入JC	15:30	大本山總持寺	大本山總持寺(泊)			
14日(木)	・御征忌焼香師随喜参拝 ・参加者の先祖代々供養 ・本山上膳			大本山總持寺	10:30	汐入IC	首都高速	川崎IC	東京アクアライン(海ほたるPA)	木更津JC	房総スカイライン	鴨川	17:00	安房小湊	安房小湊(泊)
15日(水)	安房小湊	8:30	誕生寺	シワールド	鴨川	木更津南IC	関東東・首都高速	三郷JC	東京外環道路	大泉IC	関越高速	長岡IC	19:00	長岡安善寺	長岡安善寺

仏壇のお参りの仕方 ②仏壇の前で正座して、居住まいを正し本尊と位牌を仰ぎます。

火防稲荷 吒枳尼尊天大祭

季刊紙第四号で紹介いたしました
左記の如く厳修されま
す。ぜひご参加ください。

日時 九月十八日(土)

午前十一時より

会場 安善寺稲荷堂

秋期彼岸会

九月二十日より九月二十
六日までの一週間は、秋の
お彼岸です。各法要は午後
一時からです。

●彼岸入 二十日(月)

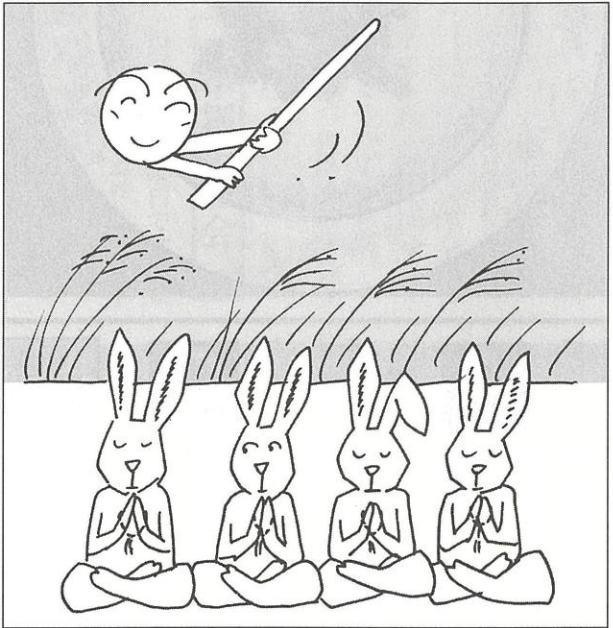
●お中日 二十三日(木)

●彼岸明 二十六日(日)

坐禅 臘八摂心

禅宗の修行道場において
は、十二月一日早朝より、十
二月八日の早朝まで、臘八
摂心といい、釋尊成道の故
事に学び、その恩徳に報い
るため、ひたすらの坐禅修
行をします。

安善寺におきましても、十二



釋尊成道会

月三日(金)・四日(土)・五日
(日)・七日(火)午後六時
より八時まで、坐禅を厳修
いたしますので、一夜でも
二夜でもかまいませんの
で、ご一緒にお坐りになり
ませんか。

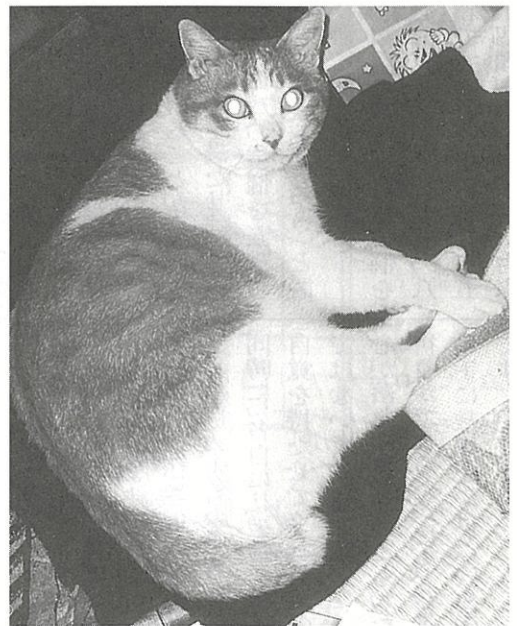
坐禅 二祖断臂接心

十二月初八日は、お釋迦様
が菩提樹下でさとりを得て
佛となられた日です。仏教
誕生の日といってもよいと
思います。仏教徒として、釋
尊成道の法要に歓びと感謝

臂接心です。

山内大掃除

安善寺では、毎年十二月の
第三日曜日に、山内大掃除
を行います。須彌壇(お寺で
仏像を安置する壇)・開山・
羅漢様など、檀家各家のお
位牌も全部おろし、一年間
のほりを取り除きます。
今年(は)十二月十九日(日)で
すが、朝八時半頃より夕方
までかかります。ご都合の
つかれる方は、お手伝い願
えれば幸甚です。



暑い暑い夏でしたが、皆
様元気で九月を迎えられま
したか。犬は暑さに弱いと
言いますが、私共猫族は、寒
さも暑さも苦手です。私ペコ
大蔵もこの夏は夏バテで、
食欲もなく、ただ少しでも涼
しい所を求めてグターと寝
ているだけでした。
そうそう、言い忘れました
が、私共は文化生活になじみ
にくく、クーラーは嫌いで
す。どんなに暑くても自然
の中で少しでも環境のいい
所を探し、体力を消耗しな
いように動かずにいます。
私から見ると人間は大変
ですね。仕事があるからと、
暑い中でも汗をかきかき働
くとは。今回もつくづく猫
でよかつたなあ、と実感し
ました。
この前ちょっと面白いこ
とがありました。住職が朝、
歯磨きをしようとしたとき、
いつも使っている歯磨き粉
がカラだったので、そのと
なりにあつたチューブを使
つたそうです。でも、使つた
途端に吐き出してしまつた
そうです。なぜなら、それは
歯磨き粉ではなく、洗顔料
だつたのです。
話を聞いた家族全員が、
暑さを吹き飛ばすように笑
い転げておりましたが、私
も一緒にニヤーンと笑いま
した。

日記大蔵ペコ

ニヤーンと笑つたお話

近藤弘子代筆

残暑をさっぱり味で!!

長茄子としめじ、枝豆の梅干和え

近藤 マリ子

今年の夏ほど水がおいしいと思っただけだ年はなかつたのでは...と思うくらい、友人が汲んで来てくれた二十リットルのポリタンクの清水が三日と持たない程でした。

とにかく暑い夏でした。そんな夏を忘れさせてくれるような爽やかな一品を紹介

介させていただきます。

【材料四人前】●長茄子二個・しめじ一房・枝豆十粒くらい・梅干五く六個・砂糖・酒・化学調味料

茄子はへたをとって縦半分になり、水に入れてアク抜きをしてから、塩ひとつまみを入れた湯でやわらか

く茹で、絞って食べやすい大きさに切っておきます。しめじも茹で、絞って茄子と同じように切っておきます。枝豆は塩を入れた湯で茹で、甘皮も取り除き、四等分くらいに切っておきます。梅干は種を取り、すり鉢でよく擦って、お酒をほんの少

したらす程度に入れ、砂糖を加え、化学調味料を少量入れて味を整えます。そこに用意しておいた茄子、しめじ、枝豆を混ぜ合わせます。茄子がとても美味しい時期になって来ましたし、枝豆の色と梅干の色がとてもきれいな一品です。



龍弘流 読者とのQ&A

Q お数珠とは何なんでしょうか。何のために持つのですか。またお数珠の珠の数もいろいろあるようですが、何か決まりがあるのでしょうか？

A 数珠は数を記す珠の意で、小珠を数多く繋ぎ輪にして、三宝(佛・法・僧)の名を唱念する時、その数を記す

道具でしたが、のち佛菩薩を礼拝するとき、手にかけ、あるいは揉み、また念佛の回数を数えるのに用いるようになりました。

「木樵子経」には、「迷いの心の煩惱や、自分が過去に行った悪業の報いを減らしたいと思うならば、木樵子(ムクロジ)の木の実、百八個に穴をあけて糸で通してつなぎ、これをいつも自分の身から離さずに持ち、歩いてるときも、座しているときも、臥せているときでも、つねに心を集中して佛法僧の

三宝を称え、木 子樵珠を一つ繰り送り、このようにして繰り返すこと十遍、さらに十万遍、二十万遍を満たし

念佛宗は三十六顆、禅門は十八顆を用いております。一〇八顆の珠のほかにも、一顆の大きな珠を母珠(親珠)、輪



て心が乱れることなければ、その人は生まれ変わるとき、天に生まれることができ、さらに百万遍を満たせば、その人は、百八の煩惱を断じることができるといって「お数珠は、百八煩惱を退治するを意味して、一〇八顆です。これを折半して五十四顆がありますが、古来

の四処にある小珠を数取(四天珠と呼びます。お数珠は仏教信者であることをしめすものであると同時に、各自に仏教徒である自覚を持たせてくれるものではないでしょうか。心が落ちつき、心のこもった祈りができるためにも、合掌の手に数珠をかけた方がいいです。

仏壇のお参りの仕方 ④ロウソクの火で一本の線香に火をつけ、少し押し頂いてから香炉に立てます。

催しのご案内

坐禅会

毎週火曜日の午前六時から七時までで、六時半までは黙坐でその後は従容録の勉強をしています。

現在、会員は十五名くらいです。各週水曜日の午後三時から四時は、病院関係の方々が坐りに来られます。

写経会

毎月二回、曜日は決まっていますが、午後一時半～二時半まで、「般若心経や修証義」を書き写し、その日に写したお経は、本堂に用意してある箱に納めます。

その後、皆で般若心経を唱え、十五分くらい住職の法話を聞き、茶話会になります。写経中は静かですが、茶話会になりますと、皆賑やかで楽しい会です。現在、三十余名くらいの会員がおりますが全員女性です。

俳句の会

毎月一回木曜日(第何かは決まっています)、午後一

時半からで、一人五句ずつ投句し、七句を選句するやり方です。

今まで指導してくださった目黒先生がお身体の都合で止められ、現在は会員十名だけでやっています。

ちなみに、会員は男性二名女性八名です。

革細工の会

毎月二回、月曜日です。こちらは他の会よりも少し早く午後一時からです。

皆さんとても一生懸命で、作られる作品は、とても見事なものが多いです。

先生が題材を持って来てくださるのですが、それにあきたらず個々に好きな作品を作り、先生に聞いておられる方も多くなりました。

ビハラのいのちの講座

仏教者ビハラの会の主催で、毎月第三土曜日の午後三時～五時まで。

喫茶「いそしぎ」(長岡市東坂之上二丁目 電話3588363)で、『ビハラのいのちの講座』が開催されております。

安善寺 12月までの行事

坐禅会	写経会	俳句の会	革細工の会	いのちの講座
[朝] 6:00AM~7:00AM [昼] 3:00PM~4:00PM	1:30PM~3:00PM	1:30PM~3:30PM	1:00PM~3:00PM	3:00PM~5:00PM
[朝] 9月 7日・14日 21日・28日 10月 5日・12日 19日・24日 11月 2日・9日 16日・23日 12月 1日 (3日・4日・5日・7日は6:00PMより)	[昼] 9月 8日 22日 10月 6日 20日 11月 10日 17日 12月 1日 5日	9月 3日 21日 10月 1日 19日 11月 5日 16日 12月 3日 14日 (14日午前10時より納経)	9月 13日 27日 10月 4日 18日 11月 8日 22日 12月 13日	9月 18日 10月 16日 11月 20日 12月 18日 喫茶「いそしぎ」にて

今期は「心と身体を考える」というテーマです。交代で、ビハラ会員の僧侶・医師・看護婦さんなどの基調講話の後、質問を受け、参加者の皆様方と語り合ひ、話を深めてまいります。

誰でも参加自由ですし、聞かれるだけでも結構です。なお、一回ごとの会費は、五百円ですが、コーヒード(紅茶)も含まれておりますので、気楽にお出かけください。

お別れ

(平成十一年七月～八月末)

岸 七郎様 七月二日寂
長岡市新町

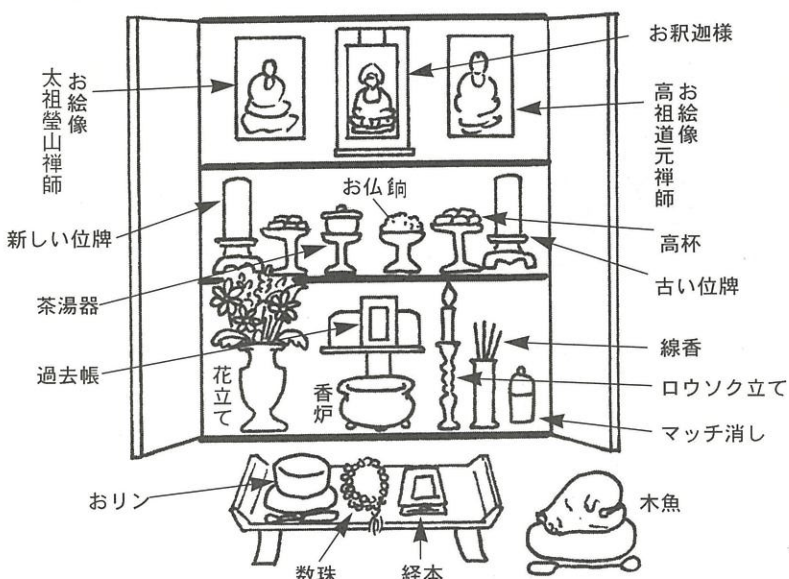
岡地 茂様 七月六日寂
長岡市新保

金泉邦弥様 七月十七日寂
新潟市関屋堀割

桑原俊茂様 八月廿二日寂
長岡市下山

高橋吉三郎様 八月一日寂
長岡市今朝白

ご冥福をお祈り申し上げます。



日常の一般的な仏壇のまつり方

仏壇のお参りの仕方 ⑤おりん(カネ)を二つ心をこめて打ち、おりの響きを聞きながら、両手のひらを胸の前で合わせて合掌し、合掌のまま頭をさげて礼拝します。数珠は親指と人差し指の間に掛けます。

城下町遺烈

神奈川県葉山町 ● 永井 安宅



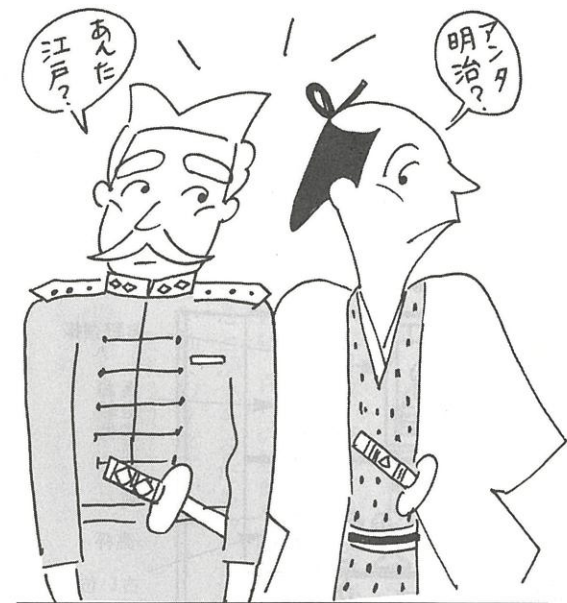
先日、所用で四国の高知市を訪れた折、国宝の高知城を見学しました。自然の地形を巧みにとり入れた城域は、攻めるに難しという印象を与えるが、現在は落ちついた雰囲気の中で江戸時代を懐旧できる場になっている。天守閣に入ると歴史資料館のような部屋があったの



で、長宗我部氏や山内氏の事跡をどのように伝えていくのか期待したが、展示されているものは坂本龍馬の写真とか、月形半平太の似顔絵程度であった。同市には他に立派な歴史資料館があるのだと思うが、国宝の建造物なればこそ土佐の歴史と文化の全体像を、この城を訪れる人にバランス良く伝えて欲しいと望むのは私一人だけではないはずである。それについても高知の人々の坂本龍馬に対する思い入

れは大変なものがあるが、司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」の影響もあり、今や竜馬の存在感は全国的な拡がりを見せている。確かに若くして、志半ばで凶刃に倒れた竜馬を、捉えてはなさないことであろう。ところで、竜馬を暗殺した犯人については従来、京都見廻組の単独行とされてきたが、彼等に手を廻して工作し、暗殺を指示したのが、薩摩の西郷隆盛であるということが、暗殺実行者に関するその後の調査などで

明らかになったとされている。武力闘争による革命をめざす西郷にとつては、議会政治による連邦共和国制という開明な思想を持つ竜馬は邪魔な存在であった。この悲劇は岩倉具視の陰謀による孝明天皇の毒殺と並んで、幕末の闘争はいかに目的のために手段を選ばなかったかを物語るものである。



土のオリジナリティーが作られていると思う。一口に城下町といつても、江戸幕府設立当初から明治に至るまで続いた藩の城下と、転封や改易により何回か藩が替わった城下とはかなり風土の違いがあるように思う。長期に安定した藩政は地域の伝統である学術文化を生み出し、豊かな生活文化を作り出す上で大きな影響を与えたと考えられる。長岡の場合も、たとえ戊辰戦争と第二次大戦時の空襲で貴重な歴史遺産が焼失し、往時を偲ぶ城も城跡も痕跡もとどめず失われていると

はいえ、長岡藩初代藩主牧野成以来、長岡の地に培われてきた政治・文化における精神遺産は現在の長岡の風土の根底を流れており、決して消えることはない。従来の日本の歴史教育では、明治維新を境として全く新しい時代が始まったとされ、明治政府は折にふれて江戸時代を否定しようとした。しかし、現在の私たちの生活文化に、また精神構造の中に、江戸時代がどれだけ直接的、間接的に関わりを持っているかを考えるとき、二百年間、内外の大きな戦争もなく、平和を享受してきた江戸時代の文化は、明治維新で区切られることなく継続して、その後の私たちの時代へと深く入り込んでいるといわざるを得ない。長岡の市はそこに城下の面影を残すものはほとんど見られないが、江戸時代から越後の中心都市として、その生活文化をはぐくんできた確かな伝統ある城下町である。その伝統と調和した未来がこの市に作られて行くことを切に期待したいと思う。

仏壇のお参りの仕方 ⑥「南無釈迦牟尼仏」(大いなるお釈迦さま)、または「南無婦依仏、南無婦依法、南無婦依僧」(大いなる導師、御仏を心から信じます。仏に婦依し仏の教えを信じ、僧を拠り所にして、みんなが和し、何ものにも妨げられない境地が得られますように心から祈ります)ですが、「南無婦依仏」を数回唱えても結構です。

米百俵の精神を世の中に

編集委員●小林国二

秋の気配を感じるこの頃、熱風が涼風に変わり、若者の声が虫の声に変わると、静寂の季節。読者の皆様にはこの夏いかがでございましたでしょうか。

毎日起こる事件・事故・災難と、新聞記事に困らない日々です。そんな世の中、何か変わった、何か変だ、ちよつと違うのではないかと、と日々疑問を抱く方々も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。

筆者の独断と偏見で考えた一つの結論を掲載します。ただし、論戦は一切受け付けませんのでよろしくお願いたします。

さて、最近の若者ファッションは自由な表現として色々な姿勢好を目にします。それなりにらしく見える子と、年配者が見てだらしなさと表現できる若者と二



タイプいます。本人には関係ないことですが、個の追求とかで、自分だけは人と違うと個性を表現しているのだそうです。

それはそれで結構なことですが、この世の中、自分だけの世界でないことを理解していないような気がします。自由と平等の勘違いと言

は一人で生きているのではありません。人と人が関わって生きていることを忘れてはならないことを言いたいのです。

世の中はルール(法律)があり、道徳があります。基本ルールは常識のこと。道徳とは虚懐坦懐であり、活淡虚無であると老子は言っています。

昨今の風潮は金銭ばかりが優先して、人としての尊厳を見失っていないでしょうか。リーダーとなる人が汚職で賄賂で世の中をダメにしていることが現状なのではないでしょうか。

それでも、心ある人は小さなことから積み上げて世の中まだまだ捨てたものではないと頑張っています。この広報活動もその一端であるかと密かに自負しているのです。

私事の事で気づいたことを少々記します。婚礼式場で展示会を行い、ご注文をいただく仕事ですが、最近の注文決定者は誰か。新郎様、新婦様各ご両親と本人様六名でお越しになるとしますと、一番の決定者

は新婦です。我が家は違うと思う方、我が家もそうだと納得される方、別にどちらが良いとか悪いとかではなく、世の中の変遷です。

この時代のリーダーはどうなったのかを、考えてしまふ一幕であることを記しているのです。

戦後教育の欠陥であるとか、父親不在とか、女性パワーとか色々な理由を述べる方々もいますが、やはり、現代を見つめ直す時期に来ていると感じているのは、私ばかりでないと思うのです。いかがでしょうか。

その切り口として、提言したいことは日本の文化・伝統を大切にすることです。文化・伝統は心豊かな人を育てることになります。

いま必要なのは、文化・伝統を伝承し、日本人本来の知恵を教えることです。教育の根本の姿だと思えます。これが筆者の結論ですが、具体的にでないぞとお叱りをいただきそうなので一言いわけをさせていただきます。基本戦略ができれば戦術は難しくなく検討できます。

夢があるから目標ができません。目標ができれば計画を練ることができず、そして、それに向け実行します。

皆の方向性が決まらなないと目標は実現しません。国家のリーダーも家庭のリーダーもリーダーシップを持つことには変わりありません。

人が世の中を造り、人が人を思いやるのが大切です。何か変だ、何か変わったと思うことは、人が人としてするべきことをしていない結果です。

正しいことを正しいと言える人造りを、社会に参加している皆さんは行っていますか。先輩は後輩に、親は子に信頼・知恵・正義・孝行・仁徳を伝承していますか。それが人造りです。今まさに重要なことは総ての人よ、人造りを始めてくださいということですよ。

長岡には米百俵の逸話があります。基本は人造りです。米百俵精神を世の中に示せる長岡人よ、目を覚ませねばなりません。どんな立場でも。

一銭銅貨にご先祖を想う

長岡市昭和 ● 大勢待宗一

お盆には安善寺の参道に提灯がたつて、夜には自動的に電球の照明が入ります。見龍和尚様のご依頼で、私が提灯照明の配線工事を始めたのは昭和四十四年ごろです。

日本は高度成長の時代、長岡ではカラーテレビや自家用車はまだ珍しく、十三日のお墓参りは歩いて来る人が多かったものです。子供さんは提灯を持って、家族の人達と連れだつてのお参りで、七時過ぎにはお寺の境内の混雑もすごいものでした。

昭和六十年は晋山式が行われ、本堂の一部改修工事で電気工事のため、縁の下に潜りました。作業灯を持って、四つん這いで進む作業はクモの巣を払い、猫の固いフンを掴んでギョツとしたりで、本堂の真ん中へ着きますと、作業灯の明かりの中に丸い青錆の物が所々に落ちてい



るので拾って見ると、長い年月で青錆で形のくずれた一銭銅貨です。お寺参りをしたご先祖の方々の投げたお賽銭が床板の隙間から縁の下に落ちたのでしょうか。一銭銅貨はいつごろ縁の下に落ちたのか、私なりの推理をしました。

戦時の銅類の不足で銅貨は発行出来なくなつたのでしょう。昭和十五年にはアルミの一銭貨幣が出ています。昭和二十年頃には、財布の中には銅貨が姿を消して、アルミの一円玉に変わつていたと思います。戦後のインフレで貨幣価値は下落し、

米一俵の価格は、昭和十九年には十八円八十銭でした。昭和三十年には三千九百二十円と、二百倍以上の暴騰です。一銭玉の出番はもうなくなりませんでした。

本堂の縁の下で青錆をけずつた一銭は大正十年のもので、大ざっぱな推理ですが、財布の隅で供出を免れた銅貨が一、二枚あつたと仮定すれば、大正の末から昭和二十年頃の間にお寺参りをされた、ご先祖の方々のお賽銭が落ちたものだと思います。

家の仏壇に大正十年の一銭銅貨が一枚あります。その時のものです。見龍和尚様は、一銭は通用しないし、記念になれば、持つて帰りなさいと、いただきました。

編集 雑感

早いもので、この編集雑感の担当も二回目となる。一回目は季刊紙上で「編集委員の一人として何か記事を」ということで、顔写真入りで載せてもらったことがある。

が、必ずこの編集雑感を書く仕事は私の所へまわつてくる。それは、分かっていたはずなのに、いざとなると何を書いたらよいか、締切ギリギリまで放つておいて、今後悔しているところである。

今回は、特に急用ができ編集会議に出席できず、内容も把握しないまま、今までの季刊紙を取り出し、何を書いたのか何が書いてあつたのか、読み返しながら、いま原稿用紙にむかつて一人悩んでいる状態で、また梓が倍にな

つたことも悩みの種に。

悩んでばかりいても前に進まない。第六号までの季刊紙を見ていると、内容、ページ数ともに、まだ二年も経っていないのに、とても手作りの季刊紙とは思えないくらい内容が充実したものになっており、安藤編集長をはじめ、ご任職、それに各委員の皆様方のご努力には唯々頭が下がる思いです。

なお、私も委員の一人ではあります。編集会議の席では唯々黙つて頭を上下に振り、うなずくばかり…。もう少しお役に立てないものかと…、とは言つても何ができるのだろう。

記事については、書き慣れた方が多くおられ、毎回感心するばかりで、とても私には無理なような気がしている。やはり、行きつくところは、この季刊紙の編集会議に出席して、もっと知識を広めることと、多くの皆様に原稿をお願いすること、今私にできることはそんなところかな？ 皆様のご投稿首を長くしてお待ちしております。

(小林善秋)

投稿 歓迎

皆さまの楽しいお話や身近なお話、ご質問・ご相談、ご意見をお寄せください。お手紙・ファックス・Eメールのいずれでも結構です。お待ちしております。

〒940-0052
長岡市神田町1-4-10
安善寺 近藤 龍弘
FAX.0258-32-2870
Eメールアドレス
vc2r-kndu@asahi-net.or.jp

第8号、新年号は平成十二年一月一日(土)発刊予定です。